

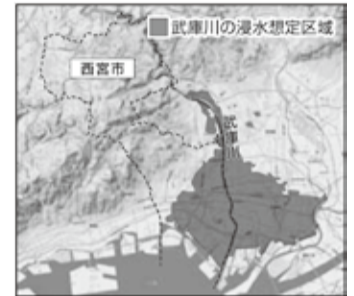
地域の特色に合わせた子育て支援を

新しい子育て支援制度が平成27年度からスタートするなど、女性が働きながら家庭を大切にできる環境づくりが求められています。兵庫県でも積極的に認定こども園を増やしてきたため、全国でも1位の数となっています(平成26年4月現在)。利用者にとっては幼稚園と保育所のいいところをあわせもつとされる認定こども園ですが、新制度は規模の大きなこども園には経営負担が重くなる制度で、昨年、大前はるよもこの点を指摘しました。現在は兵庫県が独自にサポートする方針となりましたが、兵庫県は子供をとりまく課題が地域によって大きく異なります。県内各地域の特色に合わせて待機児童の解消を図りながら、保育の質も担保することを実現します。

防災、減災のための意識啓発と効果的な対策を

武庫川流域は全国10位の人口、資産が集積しているため、降雨により氾濫した場合、西宮市を含む周辺地域では非常に大きな被害が出ることが想定されています(図参照)。武庫川総合治水対策は、平成23年より20年、420億円をかけて防災・減災に取り組む県の事業です。総合治水対策とあわせて、平成26～30年に事業着手が予定されている津門川地下貯留管の設置などの浸水対策に大きな効果をもたらす社会基盤整備プログラムも、遅れることなく行われるよう県に求めてまいります。

また、より効果的な防災、減災対策を目指すとともに、防災教育も重要です。昨年は大前はるよが提言してきた学校での武庫川総合治水の出前授業が、県と市の協働によって西宮市内の小学校でも実現されました。そのほか、阪神淡路大震災の記録をとどめた「地すべり資料館」をグローバルな防災学習の場として活用するなど、防災教育や意識啓発を県民に対して行っていくとともに、他府県や海外に向けても、兵庫県の防災、減災対策を発信してまいります。



地方活性化に若者の力を

兵庫県の中でも特に、阪神地域には22の大学、短期大学があります。例えば、平成26年度より実施されている「大学生による都市型ツーリズム推進支援事業」では、日本酒の振興のために、関西学院大学の学生が西宮市の酒造会社や日本バーテンダー協会神戸支部と連携して日本酒のカクテルを考案し、西宮商工会議所などが主催するイベントで実演販売するなど、西宮市の地場産業活性化に取り組んでいます。大学や行政、地元企業が連携することによって、地域活性化だけでなく、若者のふるさと意識づくりにもつながります。若者の知恵と力をいかした地域活性化をさらに進めてまいります。

親なき後も安心できる介護・福祉を

大前はるよ自身も、障害者を兄に持つ一人として、母と二人三脚で歩む姿を傍で見てきました。医療の発達などにより、様々な障害を抱える人々も長く生きられる時代。長寿そのものは喜ばしいことですが、その老後ケアの環境はまだ十分とは言えません。県では、障害者の施設数は計画通り設置されているので問題ないとしていますが、実際にはまだまだ足りません。また、年齢や障害の有無に関係なく地域で心ゆたかに暮らしていくためには、それを支える人手も必要です。介護・福祉職の賃金アップなどの処遇改善を実現します。公共施設などのバリアフリー化推進や、障害に配慮した教育環境の整備等に加えて、“親なき後”の不安解消に努めてまいります。

地域活性化のために、交通格差の解消を

近年、兵庫県の人口は減少しており、平成26年3月末には555.0万人となっています。昨年においては、兵庫県から転出した人の数は転入した人よりも7000人以上多く、全国ワースト3位の数となっており、転出者の多くは、大都市、首都圏へと流出しています。このような地方人口の流出に対応していくために、県民の郷土愛を育むことや、利便性を高めることが重要であると考えます。

人口が増加傾向にある西宮市内でも、特に交通の利便性に格差があります。平成23年には大前はるよを含む西宮市選出の県議7人で申し入れを行い、平成30年3月末に西宮北有料道路が無償化される方針となりましたが、名塩道路の早期完成や、阪急武庫川駅(仮称)の設置など、取り組まれるべき課題が山積しています。それぞれの地域の良さを生かしながら、利便性を高めていけるようにバランスのとれた地域活性化に取り組んでまいります。

道徳心や、自律の精神を育む教育を

各公立高校の特色化や、高校選択の可能性を広げるために、平成27年度より公立高校の学区が16学区から5学区に再編されることとなりました。子供たちの力をぐんぐん伸ばす上でよりよい環境になってきている一方で、進路について真剣に考え、それぞれに合った進路や学校選びをすることがより大切になってきています。例えば、現在50%以上の高校卒業者が大学・短期大学に進学していますが、私立大学の多くは定員割れしており、私立大学生の10人に1人は卒業することなく中退しているとも言われています。終身雇用や年功序列などの制度が当たり前ではない時代の中で、子供たち一人一人が、成長段階やそれぞれの環境に合わせて自分の生き方を考える「キャリア教育」を、道徳心を育む教育と共に推進します。

環境にも配慮した、安心安全な食づくりを

地産地消や環境への影響を学ぶなどの子供に対する食育活動を推進するとともに、環境に配慮した農業の推進に取り組みます。大前はるよは兵庫県立農業大学校での有機農業講座開設、給食での県産品使用率大幅アップなどを実現できましたが、田舎暮らしや有機農業に関心のある人々が、憧れの地として兵庫県を訪れたり、住みたいと思うような未来を目指して安全安心な農業の推進・振興に励みます。

2015 政策集 主な政策

一歩、一歩と。
こころ豊かに暮らせる
兵庫を目指して、
大前はるよは実現します。

